

2007年3月8日「世界腎臓デー World Kidney Day」に 日本慢性腎臓病対策協議会(J-CKDI)が参加を表明

増加する慢性腎臓病(CKD)の世界的な啓発活動へ
日本医療界からも本格的な取り組み

日本慢性腎臓病対策協議会(略称:J-CKDI、事務局:東京都文京区、理事長:菱田明)は、2007年3月8日の第二回 世界腎臓デー World Kidney Day への参加を表明します。

「世界腎臓デー(公式HP:<http://www.worldkidneyday.org/>)」は、腎臓病の早期発見と治療の重要性を啓発する国際的な取り組みとして、国際腎臓学会(ISN:International Society of Nephrology)と腎臓財団国際協会(IFKF:International Federation of Kidney Foundations)によって共同で提案され、毎年3月の第2週木曜日に実施することが定められました。

「世界腎臓デー」には、世界36ヶ国の医療団体や患者団体が、それぞれの国で腎臓病を啓発するイベントやPR活動を行い、「腎臓病が患者数の多い一般的な病気であること、健康にとって深刻な脅威であること、治療可能な病気であること(Kidney disease is common, harmful and treatable)」というメッセージの普及に努めます。

日本の腎臓関連3団体(日本腎臓学会、日本透析医学会、日本小児腎臓病学会)により、診療科横断的な取り組みとして発足した日本慢性腎臓病対策協議会は、「世界腎臓デー」の趣旨に賛同し、この世界的な腎臓病啓発の日への参加を決定いたしました。

参加にあたり、以下の三つの活動を行います。

- 1) <<慢性腎臓病(CKD)患者の予後と生活の質改善のための行動宣言>>の発表
- 2) 「健康と腎臓病に関する一般意識調査」の発表
- 3) 慢性腎臓病(CKD)啓発イベント「ストップ・ザ・腎不全」(3/11)の開催

※各活動の詳細については同封の活動資料1、活動資料2、活動資料3をご覧ください。

増え続ける透析導入患者の増加阻止は、今や全世界共通の課題です。これは、患者様の生活の質(QOL)増進の意味からも、個人や社会が負担する腎代替療法(透析および移植)に要する膨大な医療費を低減するという、医療経済の観点からも大きな意味があります。加えて、慢性腎臓病(CKD)は心筋梗塞などの心血管病のリスク要因であり、世界では慢性腎臓病(CKD)およびそれを原因とする心血管病によって2015年までに3600万人が死亡する

と予想されています。一般の認知はまだまだ低いですが、慢性腎臓病(CKD)が人類の健康に対する大きな脅威であることは間違いありません。

世界における現状と同様に、わが国においても、腎臓病が与える健康への脅威と社会経済へ影響は深刻です。国内の透析患者数は 25 万人を超え、さらに毎年 1 万人規模の新規透析導入患者が見込まれています。腎臓の機能が半分以上低下している透析予備群もすでに 400 万人を超えと言われており、透析患者数の増加阻止と早期発見、正しい治療法に対する国民的規模の啓発活動は緊急の課題となっています。

「世界腎臓デー」への参加にあたり、日本慢性腎臓病対策協議会は、一般社会／患者様／医療従事者への慢性腎臓病(CKD)の幅広い啓発のため、メディアの方々も含めた各関連団体および個人との連携を緊密にとり、着実な活動を行っていくことを表明いたします。

<慢性腎臓病(CKD)とは>

全世界で、この 30 年間で透析を受けている患者数は 13 倍に急増しており、その中で、日本の人口 100 万人あたりの透析患者数は世界で最も多くなっています。この背後には多くの透析予備軍の患者様が存在すると考えられます。近年、慢性腎臓病(CKD=Chronic Kidney Disease)という疾患概念が提唱され、軽度の腎障害の段階から透析や移植を必要とする段階までのいずれにおいても、有効かつ持続的な対策を講じる事の必要性が認識されるようになってきました。慢性腎臓病(CKD)対策が緊急かつ重要である理由は3つあります。

(1)慢性腎臓病(CKD)は市民の健康を脅かす重大な脅威です！！

慢性腎臓病(CKD)の患者様は、透析に至る危険性が高いばかりでなく、心臓血管障害や死亡、入院などのリスクも高くなる事が、疫学研究の結果明らかになっています。すなわち、慢性腎臓病(CKD)は万病のもとであるといえます。

(2)慢性腎臓病(CKD)は大変、頻度の高い病気です！！

腎臓の働きは世界的に、GFR(Glomerular Filtration Rate: 糸球体濾過量(値))、で評価されますが、20 歳以上で見た場合、わが国で GFR が半分以下に低下している人が約 400 万人以上存在すると推定されています。これはもう立派な国民病と言っても良いでしょう。

(3)慢性腎臓病(CKD)はその進行度に応じて適切な治療が可能です！！

慢性腎臓病(CKD)は適切な対策を施せば、腎不全や心臓血管病発症の危険を減らす事ができます。つまり、慢性腎臓病(CKD)は治療可能な病気です。

＜日本慢性腎臓病対策協議会(J-CKDI)について＞

慢性腎臓病(CKD)は国民の健康保持にとって重大な脅威となっているにも関わらず、まだまだ社会的な認知度は低く、又、医療者の中でも十分その対策の重要性が認識されているとは言えません。そこで日本腎臓学会、日本透析医学会、日本小児腎臓病学会の腎臓関連3団体は、慢性腎臓病(CKD)対策の重要性を社会に広く広報し、慢性腎臓病(CKD)対策が国民的な規模で推進されるよう働きかける目的で、2006年6月25日に日本慢性腎臓病対策協議会(J-CKDI)を立ち上げました。この協議会は、今後、慢性腎臓病(CKD)とその合併症の克服のために、関連するあらゆる組織(学術団体、行政、市民、患者、など)と協力しながら、啓発活動を展開してゆく予定です。

＜日本慢性腎臓病対策協議会(J-CKDI)賛同団体一覧＞

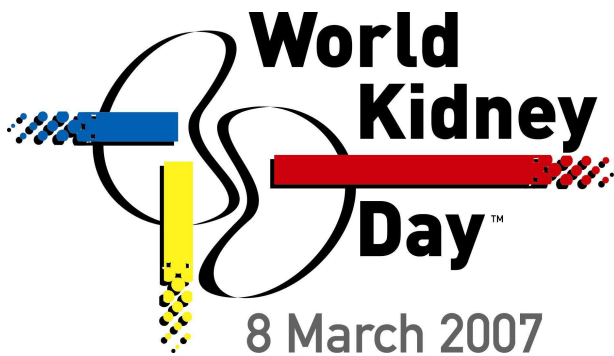
日本医師会／日本内科学会／日本糖尿病学会／日本痛風・核酸代謝学会／日本肥満学会／日本循環器学会／日本高血圧学会／日本動脈硬化学会／日本泌尿器科学会／日本臨床腎移植学会／日本小児腎不全学会／日本腎不全看護学会／日本薬剤師会／日本腎と薬剤研究会／日本産業衛生学会／日本人間ドック学会／東京都予防医学協会／日本臨床検査医学会／日本臨床化学会／日本臨床検査自動化学会／日本栄養改善学会／日本病態栄養学会／全国腎臓病患者協議会／NPO 法人腎臓サポート協会

(以上、賛同団体)

日本腎臓財団／NPO 法人腎臓病早期発見推進機構

(以上、オブザーバー)

基幹団体：日本腎臓学会／日本透析医学会／日本小児腎臓病学会



図：世界腎臓デー公式ロゴマーク